

案 件：第2回お互いさまのまちづくり協議会 議事録

日 時	平成30年10月29日（月）午後1時30分～午後3時30分
場 所	豊橋市役所 東館8階 東86会議室
参 加 者	委員 12名 アドバイザー1名 傍聴者 6名 事務局 長寿介護課

- 1 あいさつ
- 2 委員のご紹介
- 3 議事

- (1) 会長・副会長の選任について
- (2) 平成30年度上半期の取組み結果について
- (3) 平成30年度下半期の取組み予定について

— 報告 —

- ・今川委員：老人クラブの会員数は約15000人。情報が行き渡るのには時間がかかる。70歳を超えても体が丈夫で現役であるので、独り身の高齢者に目を向けていかななくてはいけないと話をした。今後は一声運動などの小さい活動から進めていく。民生委員や自治会との横のつながりを密にしていきたい。
- ・岡本委員：専門部会で取り上げて知ってもらえた。八町のほっこりがどういう流れで始まったのか過程を話してもらった。下半期は出前講座を中心に認知してもらえそうな活動を行っていく。民生委員は仕事がたくさんあって大変。中心となってやっていきたいと思いますというのは難しい。
- ・福岡委員：人材育成を中心に様々な講義や研修を行った。下半期も音読講座や傾聴、DVD上映などを行い、人材育成や認知度向上に努めていく。
- ・大川委員：シルバー人材センターのキーワードは「就業」。人とつながったり、生きがいになっている。地域でばらつきがあったため、10月にボランティアを市内一円で一斉に行った。「就業」だけでなく、活動自体を周知していきたい。また、加齢による退会の方に対しても、ボランティアへの参加を呼びかけたり、人のつながりを維持していける取り組みを行っていく。
- ・神野委員：自治会、民生委員と連携し、地域ケア会議の開催や地域イベントに参加して必要な方に紹介している。集合住宅の集会場を活用した居場所の立ち上げについても協議している。
- ・伊藤委員：グループホームでの子ども食堂の立ち上げ、大清水校区では、認知症の理解を深め、校区で安心して暮らせるまちを目指した話し合いを行った。
- ・野中委員：中央、南部と同様、民生委員の会議などへ出席し、周知を図った。9月と11月末に会議を開催。地域にどんな課題があるのか、どういう協力をして解決していくのかを考えるきっかけをつくっている。地域ケア会議（懇談会）は定期的に行っている。
- ・藤田委員：各種団体や住民、大学生等の研修会や交流会にて、お互いさまのまちづくりのパンフレット配布を行い、周知を図った。交流会に参加した方に対しての支援も行っている。
- ・事務局：複数の居場所を訪問し、交流会に向けて参加要請などを行った。また、お互いさまのまちづくりネットワーク加入のPRも行った。

- ・大野委員：のんほいでは、わいわいレストランの件について月に 1 回会議を行っている。我々は福祉の専門家ではないので、様々な団体と協力していきたいと考えている。
- ・事務局：8 月 31 日の交流会の開催や、自治会長座談会の開催、生活介護支援サポーター養成講座での周知も図った。民生委員座談会や、ネットワークの構築にも取り組んでいる。

— 質疑応答 —

- ・藤田委員：福岡委員、講座の参加者はどれくらいでしたか。
- ・福岡委員：17 名。参加者は既存の活動者が 6 割くらい。広報やチラシを見て参加する人が多い。
- ・樫村会長：地域ケア会議について意見があれば。
- ・神野委員：現状、地域ケア会議は地域からあがってきた課題を解決するために集まっている。活動者を増やすために包括が旗振り役を行うと、いつまで経っても包括主導でやってくれると思われてしまう。
- ・伊藤委員：一步引いて、必要であれば動く形が良い。
- ・野中委員：地域ケア会議は点で動いている。面で動くような形はかなり難しい。
- ・樫村会長：他団体との連携について意見がある方は。
- ・藤田委員：活動をしていると何かやりたいという方は多い。思いを実現できる環境をつくっていかなくてはいけない。
- ・岡本委員：民生委員への要望が多く聞かれる。我々はお願いされたら動くが、主体となって動いていくのはかなり厳しい。
- ・川 本 氏：民生委員と同じく、自治会の会長も仕事が多く忙しい。半分以上の自治会長は 1 年単位で変わっていくのでどうしようもないところはある。
- ・樫村会長：協力し合うことで今の仕事が楽になることがあればよいが。
- ・大野委員：誰しものが忙しいという。現状だと何かやろうとしても「忙しいから」となってしまう。主体で動こうとしなくてもよい。あらゆる団体が協力体制になれば少しずつ広がっていくのでは。声が上がったらサポートするような形でよいと思う。できる人ができるときにできることをやればよい。
- ・榎谷アドバイザー：シートを見て感じたことをいくつか。民生委員は、独り身の高齢者を訪問する仕事がある。その時にお互いさまのまちづくりについて話すなど周知を図る。また、民生委員に対してのアンケートをつくって「お互いさまのまちづくり」の認知度がどれほどか聞いてみるとよい。社会福祉協議会は、DVD の貸し出しなどを行う。包括支援センターは、地域で活躍している人やキーパーソンの掘り起こしに重点を置いてみる。包括はコーディネートが重要。豊川では、地域懇談会をよくやっている。この手法が正しいかは分からないが、小地域ケア会議とは別のパターンで懇談会があるとよい。このような場に外国人が参加することも重要。最後に、今回の報告シートは今一歩分からなかった。評価がないから。事実を羅列するだけでなく、どんなことを感じたか、どう思ったか、自分の評価でいいので書いていただけると魂のこもった報告書になると思う。

4 連絡・報告事項

- ・認知症の方とともに歩むまちづくり講演会について、事務局より報告。

5 その他

- ・平成 30 年度 第 3 回協議会
平成 31 年 2 月 19 日（月）13 時 30 分～15 時 場所は後日調整